

## 医師の異動（1月）

医師の異動はありません。

## 地域医療従事者研修会のご案内

### ■第303回開放型病床生涯教育研修会 兼 第26回湖北緩和ケア・在宅医療研究会

日時：平成31年2月7日（木）17：30～19：00

会場：市立長浜病院 講堂

テーマ：心の発達とコミュニケーション

講師：市立長浜病院 臨床心理士 金武 李佳

問合せ：地域医療連携室 電話 0749-68-2300（代表）

### ■第302回開放型病床生涯教育研修会

日時：平成31年1月10日（木）17：30～19：00

会場：市立長浜病院 講堂

テーマ：地域で嚥下障害をみる

～嚥下評価・食事介助・口腔ケアの方法について～

講師：市立長浜病院 田邊 信彦 言語聴覚士

長谷川 博美 歯科衛生士

問合せ：地域医療連携室 電話 0749-68-2300（代表）

## 第301回開放型病床生涯教育研修会を開催しました

平成30年12月6日に生涯教育研修会・第8回化学療法研修会を開催しました。講師は大阪大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科学 吉波哲大 先生で「経口がん薬物療法薬について～乳癌を中心に～」をテーマにご講演いただきました。

研修会には院内外から66名の参加がありました。前半は経口がん薬物療法薬に関して、最近の分子標的薬や内分泌療法などの話があり、後半は乳癌の経口がん薬物療法薬の各論の説明がありました。

今後の病院との診療所、調剤薬局の連携についても意見交換がされ、参加者からは「外科領域で働いたことがなくても大変興味深い内容だった」「内服薬の理解が深まった」といった意見が聞かれました。



## お知らせ

平成31年1月1日から新しい電子カルテシステムに変更しました。システムの入替え及び外来運用の変更により、ご迷惑をおかけいたしますがご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

診療情報提供書を持参されないまま来院される予約患者さんがおられます。

今後、診療情報提供書を持参されないまま来院された場合は予約の取り直しをして再来院いただくこととなりますので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

### ■ 編集後記 ■

慌ただしく新年を迎えました。

今年こそは、いい一年だったと思えるようにちょっとした勇気と努力が必要かと思っています。

ONとOFFのメリハリをつけ、充実した一年を過ごすことを目標としたいです。

今年もご指導のほどよろしくお願いいたします。



Pink-Bu

### ほっといとき



## 市立長浜病院 地域医療連携だより

理念  
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」  
を発展させ、地域完結型の医療を進めます。



平成31年1月1日号 No.169

救急告示病院  
日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療連携拠点病院  
厚生労働省臨床研修指定病院  
周産期協力病院  
地域医療支援病院

市立長浜病院  
患者総合支援センター  
地域医療連携室  
〒526-8580  
長浜市大成亥町313番地  
TEL:0749-65-2720  
FAX:0749-65-2730  
http://www.nagahama-hp.jp/



新年明けましておめでとうございます。本年も当院事業についてご協力の程よろしくごお願い申し上げます。  
1月の外来診察担当医師表をお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

## 新年のご挨拶

院長 神田 雄史



明けましておめでとうございます。皆さんには常日頃から当院の運営にご協力いただき誠にありがとうございます。

今年、当院は地域医療支援病院として飛躍しなければならない年です。当院は昨年3月27日に地域医療支援病院の名称の承認を受け、10月1日から選定療養費の徴収を開始しました。今年は、湖北の医療機関の支援を更に推進していかなければなりません。そのためには地域医療連携が不可欠であり、湖北の医療機関の皆さんと顔の見える密な関係を築いていきたいと思っております。患者総合支援センターが中心となり皆さんからの情報に答えていける病院を目指します。

最近では勤務医の働き方改革が大きく取り上げられるようになりました。病院職員の時間外勤務表を見ると医師の時間外勤務が圧倒的に多い。自分のキャリア形成を目指して活発に診療に取り組んでいる若い医師に時間外勤務が多い傾向にあります。気になって若手の医師に話を聞いても、大丈夫もっとやりたいと言います。医師数を増やせばこの問題は大きく改善するはずですが、地方の医師不足の中では難しい状況です。研鑽と労働を分ける必要がありますが、それで名目上の時間外勤務が減っても勤務実態が変わるわけではありません。医師の業務を他職種に委譲するなど、病院職員全体の働き方改革として取り組む必要があります。避けたいのは患者サービスの低下ですが、患者さんや地域の医療関係者の皆様のご協力とご理解を得ながら、改革に取り組まなければならないようです。今年から働き方改革に本腰を入れて取り組んでいきたいと思っております。

悩ましい問題がたくさんあります。長浜赤十字病院、長浜市立湖北病院、セフィロト病院や地域の医院の皆さんと、相互支援の形ができれば時間外勤務を減らす助けになりそうです。地域の皆さんにはこれからも引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



### 基本方針

1. 患者の権利、尊厳を重視した医療を実践します。
2. 地域の医療関係者との連携を深め、地域医療の発展のためにつくします。
3. 高度で良質な医療水準を確保し、安全で信頼される医療を進めます。
4. 快適な療養環境の整備と、質の高いケアに務めます。
5. 医学研究活動を推進し、優れた医療人を育成します。
6. 職員が互いに尊重、協力してチーム医療を実践します。
7. 職員が元気で働きがいのある職場づくりに務めます。

## 患者総合支援センター長 川島 和彦



皆様あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。  
昨年11月1日付で患者総合支援センター長を拝命いたしました、外科の川島和彦と申します。患者総合支援センターは、外来受診時から入院後および退院後を見据えて、患者さまが在宅および地域にスムーズに戻るよう、医療・保健・福祉を含めた包括的サービスを提供することを目的に平成29年4月に開設されました。センターは、地域医療連携室、訪問看護ステーションで構成され、がん対策推進室、がん相談支援センターを併設しております。初代センター長である神田雄史院長の後を引き継ぐ大役に身が引き締まる思いであります。  
当院は平成30年3月27日に滋賀県知事から「地域医療支援病院」の名称の承認を受けました。かかりつけ医の先生方を支援し地域医療の連携を進め充実を図るべく、より一層職員一同取り組んでおりますその先頭に立って、誠心誠意努力して参る所存です。

さて、これからの地域医療にとって高齢化問題は避けては通れない重要課題であります。ここ湖北圏域における65歳以上の高齢化率は30%に迫る勢いで、特に長浜市北部では50%を超えている地区もあるそうです。さらに、高齢者の単身世帯や高齢者2人世帯の割合が高く、このことが介護において大きな問題となっています。今後ますます進行していくであろう高齢化社会に対し、正面から取り組んでいく必要があると考えます。

一方で、高齢化社会は同時に多死社会でもあります。すなわち、看取りの場所を確保する必要が出てまいります。「滋賀の医療福祉に関する県民意識調査（平成28年度）」によりますと、看取りの場所として県民の半数近く（41.9%）が「自宅」での看取りを望んでいます。実際の死亡場所としては、病院が8割近く（76.7%）を占め、自宅死は14.2%（平成27年県平均）に過ぎない現状です。そのような中で湖北圏域は、自宅死亡率が2割を超え（20.7%）、悪性新生物の在宅死率を見ても13.5%と全国的にも高い水準にあります。これはひとえにかかりつけ医の先生方による努力の賜物と感謝いたしております。

約25年前、研修医である私に対し「本当は退院して家で過ごしたいんや、あんたがついてきてくれるんなら。家に帰っても、婆さんと二人じゃ不安だな」と言って長期入院のまま人生を終えられた方がおられました。時代が進み、高齢化が進んでまいりましたが、「在宅」「連携」を口にしてよい時代となってきました。病院完結型医療から地域完結型医療に変わってきました。

私は一介の外科医であり地域連携に関してはまだまだ浅学ではありますが、一人でも多くの患者さまに、少しでも長い時間ご自宅で過ごしていただきたいと考えています。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 看護局長 松田 和子



謹んで新年のお慶びを申し上げます。  
昨年は看護局においても大きな変化が見られた年でありました。  
一つは、これからの地域包括ケアシステムの中で求められる看護師の能力開発について、日本看護協会のツールを参考にしながら看護師教育のツールの見直しを図ったことです。日本看護協会が先立って作成された看護職員クリニカルラダーは、自施設にとどまらず、どこで働いても共通の看護実践能力が身につけられる全国共通ツールとなっています。当院も概論的枠組みを整えて試行の年となりました。まだまだ浸透が十分とはいえませんので、今年もう一年かけて職員一人一人がこのツールを理解し、活用できるように周知をしていきたいと思っております。

もう一つは医療圏内でこれまで以上に医療従事者同士の連携が強まる機会が多くなったことです。多職種による事例検討会は、年々参加者が多く定着してきているように感じます。当院の看護師も一度だけでなく、興味のある事例など何度か参加して、地域の看護職との交流で、現場での看護の振り返りや、今後の看護展開に活かせるものを見いだすよい機会となっています。個の事例共有から「こうすればもっとよくなるのに」、「こんな仕組みがあったらいいのに」と課題もでてきているようです。

昨年、滋賀県看護協会の発案で県内医療圏別で地域看護連携ネットワーク推進会議が立ち上がりました。委員構成は保健所統括保健師、市町統括保健師、病院看護部長、訪問看護ステーション看護管理者、看護専門学校校長、助産師代表、看護協会第6地区支部長、看護師職能2委員会代表などから構成されています。まだ始まったばかりですが、各々の役割と立場における課題を持ち寄り、検討する場所となりつつあります。一委員として積極的に参加していく所存です。

本年も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 医療技術局長 村上 義和



新年あけましておめでとうございます。  
昨年は開業医の先生方を始め多くの医療機関の皆様、当院医療技術局に対して、ご理解、ご協力いただき誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。  
当院医療技術局は、5科1室の組織で構成され、12職種の技師（技士）が各々の職場で専門の知識・技術を生かしチーム医療の一員として日々業務に励んでいます。  
さらに専門性をより高めるため、各種職能団体、学会が認定している専門技師の取得にも力を入れ多くの専門技師が誕生し、人材育成にも努めています。

開業医の先生におかれましては、MRI検査、CT検査、核医学検査（RI検査）、骨密度検査（DEXA）、心臓血管エコー、腹部エコー検査等多くの検査依頼をいただき誠にありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年、RST（呼吸ケアサポートチーム）では、地域連携だよりを通じて地域の皆様に呼吸に関する相談を受け付けていると掲載をしましたが、残念ながら相談はありませんでした。

今年の新たな活動に向け、昨年12月18日（火）に開催されました、滋賀県訪問看護ステーション連絡協議会第6地区支部定例会において、臨床工学技士が呼吸管理について説明をさせていただきました。

人工呼吸器を装着している患者さんは本当に人工呼吸器が必要なのか、また、設定等についても十分な評価をされず過ごされている方が大半だと思われます。そのような患者さんに入院して頂き、適切な評価をすることにより日常生活の大幅な改善が見込まれます。

また、場合によっては、臨床工学技士が自宅へ訪問し継続した評価をすることも可能です。患者さんの呼吸のことでお困りの場合は、いつでも相談や入院いただくことができ、適切な評価を受けることができるよう準備が整い次第開始させていただきます。

その他、医療技術局に対しまして、検査の予約および相談等何かございましたら、地域医療連携室を通じご連絡いただければできる限りの対応をさせていただきます。

本年もご指導・ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

## 健康になるためのリハビリ体操

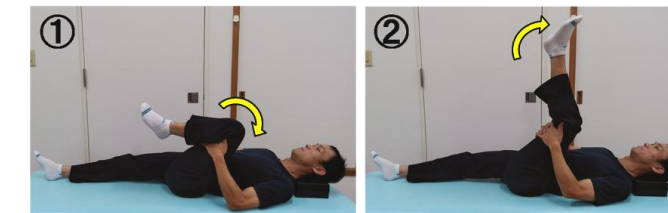
### リハビリテーション技術科 理学療法士 西村圭二

今回から12回シリーズで、健康になるためのリハビリ体操をリハビリテーション技術科のスタッフが紹介いたします。ご参考にいただけますと幸いです。

『第1回 股関節とひざを柔らかくするストレッチ』

股関節が硬くなると、足の付け根の痛みや腰痛の原因になります。またひざが硬くなると、痛みを感じたり立ち座りがしにくくなったりします。そこで、以下のストレッチをやってみましょう。

#### 1. 10秒伸ばそう股関節・ひざ曲げ伸ばしストレッチ



①ひざを胸に近づけるように股関節を曲げます。その状態で10秒間保持します。②次にひざをできるだけ伸ばして10秒間保持します。これを3～5回繰り返しましょう。

#### 2. 太ももの筋肉を内側と外側にまわすストレッチ



太ももを両手でつかみ、大腿骨に対して筋肉を内側と外側にまわすように動かします。太ももの筋肉全体をほぐすように、ゆっくり動かします。20回動かすストレッチを3セット行いましょう。